

NEXT INFO

①

2024 新しいこと盛りだくさん

今秋開催概要をオンライン配信

Go forward into the future

新コラボ×技術×カタチの価値提案

毎年、さまざまなセミナープログラムを企画していますが、人気を博す傾向は大体パターン化されています。

ライティングやレタッチをはじめとするテクニカル系は、日々の撮影ビジネスに直結しやすいこともあり、毎回立ち見が出るほど大勢の来場者で埋め尽くされやすいと言えます。逆に新しいテクノロジーや、画期的なプロダクトおよびサービス関係は、その進化の過程についてこられないのか、あるいは自身のビジネスを踏まえたうえでピンとこない部分もあるためか、テクニカル系のセミナーに比べるとさほど大きくは注目されない回もありました。

しかし後者の内容こそ、主催者が最も強調したいプログラムであり、そこに開催コンセプトと連動させてメッセージ性を込めています。過去には電子出版や3Dフィギュア、4K8K、ドローンなどに焦点を当ててきました。これらの技術がフォトビジネスに与える影響をもたらすのか、といった点にスポットを当てながらPHOTONEXTという展示会名に相応しい内容として採択してきました。2023年は「デジタルツイン」を取り上げました。新しいテーマに関心を示す来場者は、毎年必ずいます。そして、そうした人たちが新たな可能性を切り拓く可能性を秘めているのです。



PHOTONEXT2023のメインステージでは、「デジタルツイン」をテーマとした基調講演を実施。さまざまな可能性を模索しようと、熱心に耳を傾ける来場者も多かった。



出展社のブースでも最先端のテクノロジーが話題となった（写真はキヤノンマーケティングジャパン株式会社ブース）

AIがもたらす新しい 写真映像ビジネスとは

2024はいかなる「NEXT」を打ち出すか。主催者にとっては最も頭を悩ますところであり、同時に楽しく練ることができる企画と

見かけました。AIを使って個々のフォトグラファーの編集を学習して自動編集するというもので、写真編集を効率化するサービスとなっています。

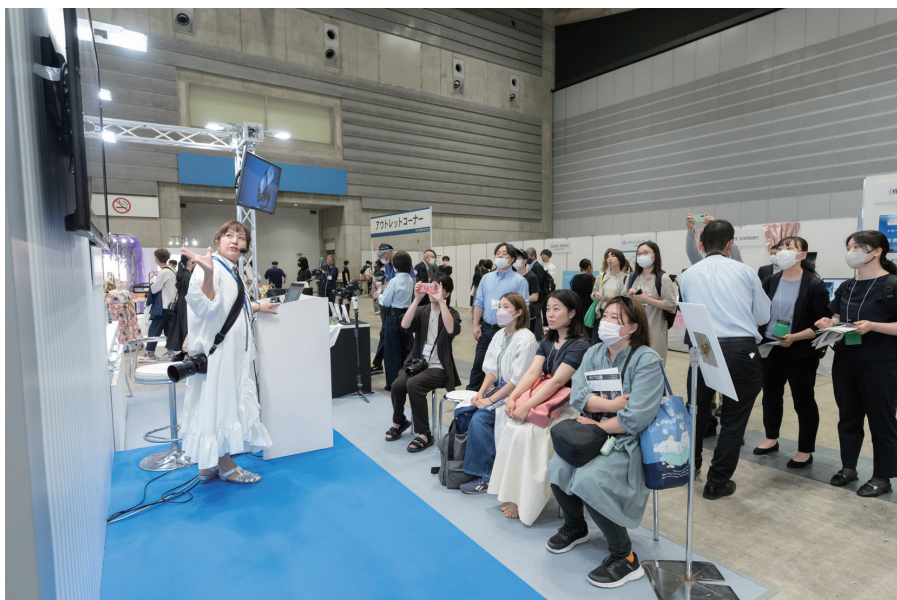
今まで何十時間とかかっていた画像編集の作業が、数十分で済んでしまうのです。フォトグラファーにとっては、夢のようなツールですね。現時点では改良の余地がまだあるようですが、AIを使ったツールなので経験を積み重ねるほど進化するという特徴があります。

なぜ、こうしたツールが登場するのでしょうか。1つに、AIテクノロジーが一層グレードアップしていることが挙げられます。では、こうした状況をいかなる目的で活かすか。ポイントとなっているのが、「AIが担う役割」と「フォトグラファーの主張」を切り分けていること。つまり、このAIツールは「作業時間の効率化」を最大の目的としていますが、一方でフォトグラファーのこだわり、特色、クリエイティブな領域までには踏み込まずに「オリジナリティを活かす」という側面を持たせています。

変わりゆくAIの世界。2024では、その一端を来場者の皆様にお届けできたらと考えています。一方で、詳しくは次ページに掲載しますが、新しい切り口によるパビリオンを新設する予定です。もちろんテクニカル系のセミナーも充実させていきますので、引き続きご期待ください。

して、1番情熱を注ぐ部分になります。現在、構想にあるのが「AI」です。

先日、主催者が発行する、撮影ビジネスの現場からいまを伝える情報誌「スタジオNOW」の取材で、興味深い編集ツールを



「見て」「聞いて」「楽しめる」場に。2024もPHOTONEXTではさまざまな企画を立てて来場者の皆様をお待ちしたいと考えています（写真は過去の会場の様子）。

これまでに「PHOTONEXT」として13回、前身の「スタジオ写真フェア」を含めると18回、展示会イベントを開催してきました。毎年、その年の写真業界、さらには世の中の流れ、技術革新等を踏まえてテーマを捻出。前回は「More Professional～王道と新生～」としました。そして今回は「Go forward into the future～思い出も記録もカタチに残す価値～」を打ち出します。

まずは、このテーマを掲げた理由について説明しましょう。端的に言えば、コロナ禍による影響を受け、フォトビジネスが新たな時代（ニューノーマル時代）に入り、そのなかでステップアップし、さらなるプロフェッショナルを極める、という流れで今日に至りまし

た。あらためてフォトビジネスの原点に立ち返るとともに、NEXTに向けた取り組みを模索するという考えが根底にあります。

2024は、その流れを引き継いだテーマとなっています。「次なる写真映像ビジネス」という視点はこれまでと同じですが、さらに具現化した新たな取り組みを目論んでいます。

新しいパビリオンとして考えているのが「美容×写真」と「カタチの価値」の2つです。それぞれのコーナーの概要について触れる前に、まずはこれらのテーマを採択した理由について記したいと思います。

この考えの前提にあるのが、主催者コーナーの拡張版としてテーマ性のある内容を深掘し、「ブー

ス&セミナーイベントという構成で動線を図る」という点です。これまでの主催者コーナーは、プリント商品や撮影機材、衣装などバラエティに富んだブースの集合体で、一部セミナーと連動した企画ブースもありました。

ただ今後は、この主催者コーナーを開催コンセプトと連動させながら、よりテーマ性のある内容として明確化したいと考えました。まず今回は、「美容」「カタチ」をキーワードに掲げます。

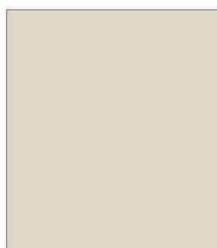
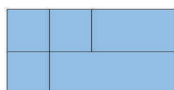
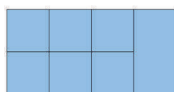
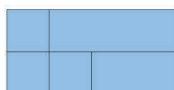
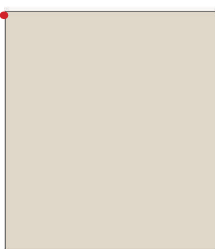
ではなぜ、この2つのテーマなのか。まず「美容」は、撮影ビジネスに携わる方々にはおわか

りの通り、大いに関連するジャンルです。ヘアメイクやスタイリングは、ハイクオリティな撮影をするうえで欠かせない要素です。出張撮影を中心に活動するフリーランスフォトグラファーのなかには、着付けの技術を習得し、自ら手がけている人もいます。

「美」を追求するうえで、着付け・ヘアメイク・撮影と、それぞれのプロがチームとして手がけるケースが散見されることから、各々がそれらの知識を得ておくことは重要です。それによりアイデアが膨らみ、表現の幅がさらに広がることでしょう。記念写真から

2つのテーマによるパビリオン

メイン
ステージ

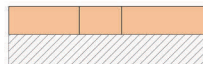
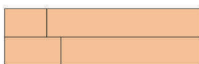
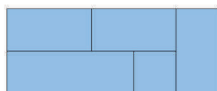
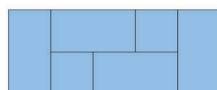
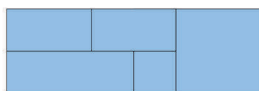
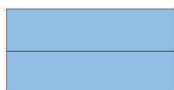


美容×写真

七五三や成人式をはじめとする記念日写真からコマーシャル写真、最先端のヘアメイク、スタイリング、そして撮影まで、それぞれのプロによるトークショー&ライブシューティングと関連ブースによる構成。

カタチの価値

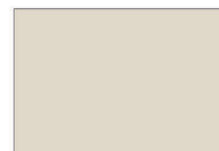
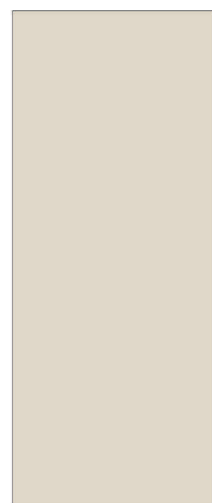
なぜプリントにして提供するのか。その価値を顧客に伝えられる商品・サービスになっているか。業界の垣根を越えて、いまプロとして考えるべき「カタチに残す価値提案」をセミナーとブースの両輪で体験。



ブース・セミナープログラム (案)

- ・ヘアメイク～撮影まで最先端ワークフロー
- ・さらなる「美」へ導く最新アイテム一堂に集結
- ・写真をプリントするきっかけにつなげる写真整理体験
- ・新たな価値を創り出すブック作り&売場提案

アウトレット
コーナー



セミナールーム

2024 パビリオン新設!!

コマーシャルまで幅広く手がけるフォトグラファーと美容スタッフとのトークセッションや撮影ライブ、さらには次回公式アンバサダーの撮影&ヘアメイク&スタイリング秘話およびデモンストレーションなど、まだ構想段階ではありますが、実現すれば見応え満載となることは間違いありません。

何のために写真プリントをするのかを考えよう

もう1つの「カタチの価値」、これは読んで字の如く、2024のサブテーマともリンクした内容となります。

何事も、根本が大切になって

きます。日々、読者の皆様が取り組まれている仕事について、「何のためにやっていることなのか?」と考えたことはありませんか。本誌も、そしてPHOTONEXTも、いつも心がけていることは「単なる作業になっていないか?」を自問自答することです。

本誌のページを埋めるために、セミナーの枠を埋めるために、無理に探してくるネタほど新鮮さに欠け、読者や来場者に見向きもされません。そこに筆者や主催者の「想い」が伝わらないからです。

写真プリントにも同じことが言えるのではないのでしょうか。たとえば、店頭で「フォトブック」という名前で商品を陳列しましよ

う。果たして、どういうお客様が、どんな目的でその商品を購入されるのでしょうか。

売れないのであれば、その原因を考えなくてはなりません。ウェディングのアルバムが売れるのは、「結婚の記念に残す」という明確な目的があるからです。子どもがメインターゲットなのであれば、記念日や学校行事にちなんだ商品名にして売り出してみたいかがでしょうか。

写真のプロとして活動するならば、プリント商品を買って然るべきです。何のために売するのか。シンプルに考えましょう。「未来に残すため」です。結婚式を例に挙げれば、ドレスも料理も花も、当

日の会場の様子も、新郎新婦はもとよりゲストたちの表情、感動的な雰囲気も、すべて唯一カタチに残せるのが「写真プリント」です。未来の宝物を届けるという、とても価値のある仕事に取り組んでいるのです。

写真だからできること。それは業界の垣根を越えて、さまざまなシーンでその力が発揮されます。そうした内容に基づいたトークセッションやワークショップ、連動ブースを設けたパビリオンは、2024の大きな見どころとなることでしょう。

開催概要および詳細は、今後公式サイト(www.photonext.jp)に掲載いたします。

NEXT INFO



《PHOTONEXT 情報満載の月刊誌》

撮影ビジネスの現場からいまを伝える情報誌「スタジオ NOW」。2023年7～9月号では2023年の「PHOTONEXT」の様態をレポート。引き続き、最新トレンドも含めて発信いたします！



フォトグラファーズ & フォトビジネスフェア

2024年6月11日(火)～12日(水)

パシフィコ横浜 B ホール

www.photonext.jp

主催：株式会社プロメディア
 主催団体：日本フォトイメージング協会
 一般社団法人日本写真映像用品工業会

特別協賛：日本営業写真機材協会

次号予告

PHOTONEXT2024 開催概要

次回の見どころを紹介!!

- ①企画コンセプト
- ②出展のご案内
- ③新プログラム、ほか

開催概要説明会の日程は
 近々アナウンスいたします！

主要スケジュール ※変更になる可能性があります

- ◎第1次申し込み締め切り：1月31日(水)
- ◎最終申し込み締め切り：2月29日(木)
- ◎出展社説明会 / 小間割抽選会：3月22日(金)
- ◎搬入日：6月10日(月)
- ◎会期：6月11日(火)～12日(水)

「PHOTONEXT オンライン」協賛のお願い

・PHOTONEXT 来場対象者へ最新情報をお届けするオンライン企画に、パネリストとして参加しませんか？「PHOTONEXT オンライン」は、自社製品やサービスをアピールいただく絶好の機会です。オンライン特典や今後実施予定のキャンペーンに加え、2024年にブース出展をご検討いただいておりますら、出展内容とともにPRする場としてご活用いただけます。

・本イベントは事前登録制で、参加者には申し込み時に名前やメールアドレス等を記載いただけます。その情報を一覧にしてお渡しいたしますので、今後の販促にご利用いただけます。また、本イベントの開催中にチャットで寄せられた内容もテキストデータにてご提供いたしますので、本番中に対応できない場合でも、終了後に参加者へコンタクトを取ることができます。

・当日のライブ内容は収録し、参加者へお届けするとともに、当日ご覧になれなかった方々のために、PHOTONEXT 公式ホームページおよび SNS にて、「PHOTONEXT オンライン YouTube チャンネル」をご案内。またプロメディア発行の月刊誌「スタジオ NOW」にも記事掲載させていただきますので、終了後も広くアピールすることが可能です。

・出演時間は1社様につき30分間、出演料は5万円(税別)。詳細およびお申し込みは、info@photonext.jp(担当：深谷)まで。

オンラインによる情報発信は継続して実施！
 皆様の斬新なアイデアお待ちしております！！

NEXT INFO ①

- 本冊子は PHOTONEXT 関連トピックをまとめた通信誌です。
- 本号で触れたとおり、2024 年は新しい企画パビリオンを立ち上げます。さまざまな業種とのコラボレーションにより相乗効果を生み出すとともに、新しい価値を創出していくことを目的としています。最新情報は本誌にて！
- PHOTONEXT に関するお問い合わせは主催事務局まで (TEL: 03-6302-0801、FAX: 03-6302-0802、メール: info@photonext.jp)。